やりました！　通学合宿！

小島中学校区青少年育成協議会　会長　　佐藤　克己

長崎市中心部ではなかなか行われていない通学合宿ですが、今回小島中学校区の２つの小学校区（小島・愛宕）でそれぞれ実施することができました。

通学合宿とは、子どもたちが公民館等に寝泊りして自力で生活しながら学校に通うという地域密着型の体験事業で、今の子どもたちに欠けていると言われる「生活体験」を、文字通り地域ぐるみの取組みとしてさせようというものです。

小島小学校区は21名の参加で10/31～11/3の３泊４日を小島ふれあいセンターで、愛宕小学校区は14名の参加で11/23～11/27の４泊５日を白木団地公民館において行いました。

主催は当育成協とそれぞれの小学校区ごとに立ち上げた実行委員会です。中身としてはまず、実行委員長には育成協から佐藤と宮崎事務局長がそれぞれ小島と愛宕に入り、学校には様々な形で本部機能を担っていただきました。さすがに学校はプロの集団ですから、いざという時には本当に頼りがいがありました。そして地域からは自治会や民生児童委員の皆さんに加え、小島中学校区青色パトロール隊の方々にもご協力いただいたほか、もちろんPTAも役員さんたちが進んで協力してくれました。

ただ、さすがに全く初めての取組みということで、私たちだけでは不安がありましたので、通学合宿のフロンティアである、市社会福祉協議会の本村さんにご指導を仰ぎながら、長崎大学や活水大学の学生ボランティアの若い力もお借りして、実施に漕ぎつけた次第です。

小島のテーマは「ふれあいと助け合い」、愛宕のテーマは「勇（ゆう）・結（ゆう）・優（ゆう）」のもと、子どもたちは日頃は家庭の大人がやってくれている買い物や料理・片付け、そうじや洗濯などの作業に取り組み、合宿所ではテレビを見る暇など全くありません。朝も６時きっかりに起床です。それでもみんなでやるから楽しくできる。お風呂は近隣の有志の方にお世話になる「もらい湯」など、貴重な体験の積み重ねがそこに得られます。

各校区40～50名にも及ぶ地域の協力者の力添えにより、合宿を無事成し遂げることができ、感動の涙あふれる閉所式もあったりと、初めてにもかかわらず熱いドラマを残してくれたこの通学合宿、この後末永く私たちの地域に根付いた事業とできるかどうか、それが私たち育成協に問われることになりそうです。

育成協とは？

去年の３月７日の朝日新聞「天声人語」にこういう記事が載っていました。

『子どもを連れた母親が危険に直面したときにとる姿勢は、日本と米国で異なるらしい。日本のお母さんはたいてい、わが子を抱きしめてうずくまる防御姿勢をとるのだという、これに対し、アメリカの母親は、まず子どもを後ろにはねのけ、敵に直面して、両手を広げ仁王立ちになるそうだ。……中略……　どちらの姿も、本能ともいえる親の愛の表れに違いはあるまい。危険からわが子を守るどころか、自ら鬼畜となって子を死なせる虐待が、この国で後を絶たない。「死なせる」と書いたが、実情を聞けば「殺す」にも等しい。』

2009 年に過去最多を記録した児童虐待事件が 2010 年に入ってからも相次いで発生した。今年は二度とこのような事件が発生しないよう願うばかりだ、事件のあった家庭はマンションやアパートで暮らしている人がほとんどで、近隣との人間関係も希薄だったという。

地域社会＝育成協と考えるのは早計でしょうか？

「地域社会や行政ができることには限界があります。しかし、地域住民の意識がもっと高まらないと虐待の兆候が見過ごされる悲劇は減らないのでは」と指摘されています。この国の将来を担っていく子どもたちを大切に育てていく環境（人間関係）をつくっていく事が地域社会の大切な役目ではないでしょうか。

最後にこういう言葉で結ばれていました。

『愛された記憶が、愛するという資質を耕す。親から子への豊かな申し送りがいま、揺らいでいるように思われる。虐待という危機には、地域と社会が両手を広げて仁王立ちになりたい。命が奪われてからでは総てが遅い。』と。

これこそが育成協の役割だと思います。　　［広報啓発専門委員　編集長］

市子連に加入しましょう！

長崎市子ども会育成連合会（略して市子連）に加入しましょう。会費は年間 200 円で、現在平成 23 年度加入手続きを行っています。加入対象者は、子どもさんはもちろん、役員さんや保護者の皆さんも加入 OK です。加入されるといろんな特典もあり、見舞金による手厚い保障もあります。

詳しくは、下記の連絡先にお問い合わせください。

長崎市子ども会育成連合会

〒 850-8685
長崎市桜町 6-3　市役所別館３階　こども部こどもみらい課内
電　話　825-1949　　FAX　821-1938
E-mail　kodomomirai@city.nagasaki.lg.jp

編集後記

『光陰矢のごとし』とは言うものの、月日が経つのは早いもので、アッという間に５回目の年男。そして、３月定年を迎える。是といって何の趣味もない、とりえも無い私にとって、これからの時間をどう過ごすのかが課題である。これまで、好き勝手を許してくれた妻との時間を大切にとは思っている。また、今まで支えてくれた地域の仲間との活動や、付き合いも大事にせねばとも思うし、新しいことにチャレンジしてみたいなど等、思っているが……。今もかくしゃくとしておられる中島公彦県子連会長は、『子どもたちから学び、パワーを貰っている』と言われる。変わらぬ情熱に頭が下がります。